甲州市文化財調査報告書　第４集

物見塚遺跡

—県営農林漁業用揮発油税財源身替農道整備事業釈迦堂地区における農道建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

2010年3月

山梨県峡東農務事務所
甲州市教育委員会
㈶山梨文化財研究所

甲州市文化財調査報告書　第４集

物見塚遺跡

―県営農林漁業用揮発油税財源身替農道整備事業釈迦堂地区における農道建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書―

2010年3月

山梨県峡東農務事務所
甲州市教育委員会
㈶山梨文化財研究所

序

本書は県営農林漁業用揮発油税財源身替農道整備事業釈迦堂地区における農道建設工事に伴って実施された、甲州市と笛吹市にわたって所在する物見塚遺跡の甲州市地内調査区発掘調査報告書であります。

物見塚遺跡は甲府盆地東南部に展開する京戸川扇状地の扇頂部付近に立地しており、甲府盆地内における扇状地の中でも非常に急傾斜の扇状地形となっております。このような平坦地の少ない地形に立地する物見塚遺跡からは、縄文時代早期末～前期初頭、前期後半代の土坑、ピット、溝状遺構が検出されました。本調査区内は土壌改良による天地返しが行われていたこともあって、遺跡の残存状況はあまり良くありませんでしたが、北側に展開する釈迦堂遺跡群との関連を示唆するような縄文式土器片も発見されました。中でも自然流路と考えられた溝状遺構ＳＤ１は、巨大な礫が流れこんだ状況を確認でき、砂礫層中から発見された土器片からは水流の影響で磨耗した痕跡が見出され、かなりの流水量をほこったであろうことが推定されます。これらは物見塚遺跡の旧景観がどのようなものであったのかを考える材料となり、土器片が流路内に流れ着いていることも、本調査区周辺に遺跡が展開していることを示すものであります。また隣接して実施された笛吹市地内調査区においても縄文時代早期末～前期初頭の竪穴建物跡、土坑、ピットなどが検出していることから、それを相互に補え合えることが示されたといえます。

最後になりましたが、遺跡発掘調査ならびに報告書作成に関係して、多大なるご理解とご協力を賜った関係諸機関および関係者の皆様方に深く感謝申し上げる次第であります。

平成22年３月15日

甲州市教育委員会

教育長　古　屋　正　吾

例　言

1．本書は、山梨県甲州市勝沼町藤井1064-1に所在する、物見塚遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2．発掘調査は、県営農林漁業用揮発油税財源身替農道整備事業釈迦堂地区における農道建設工事に先立って実施されたもので、山梨県峡東農務事務所の委託を受けた財団法人山梨文化財研究所が、発掘調査および整理作業にあたった。
3．本書の執筆は平野修、編集等は望月秀和と平野が行った。
4．発掘調査および整理作業において一部の業務を以下の機関に委託した。
基準点・写真測量　テクノプランニング㈱
5．本書に関わる記録図面・写真・出土遺物等は、甲州市教育委員会が保管している。
6．本遺跡の発掘調査および整理作業にあたっては、以下の諸機関・各位から多大なるご指導・ご協力を賜った。ここに記して深く感謝の意を表する次第である。
山梨県峡東農務事務所、甲州市教育委員会、山梨県教育委員会、釈迦堂遺跡博物館、㈱エンドレス、室伏徹、飯島泉、櫛原功一、入江俊行、中山千恵、河西　学、秋山圭子、猪股喜彦

凡　例

1．遺構・遺物の縮尺は、原則として各図ごとに示している。
2．第1図で使用している地図は、国土地理院発行『甲府』（1：200,000）を使用している。
3．遺物の挿図番号は、連番で付しており、遺物分布図および観察表・本文中写真図版中の番号は対応している。
4．遺物実測図の縮尺は、1／3である。
5．遺構図版中で使用したスクリーントーンの凡例は以下の通りである。
▨ 石　▭ 焼土
6．遺構図版中および土器観察表中の色調名は、農林水産省技術会議事務所監修　1990『新版　標準土色帖』（小山正忠・竹原秀雄）による。

本文目次

例　言
凡　例
Ⅰ　調査に至る経緯……1
Ⅱ　調査の経過……2
Ⅲ　調査の方法と基本層序……5
Ⅳ　遺跡の立地環境と周辺遺跡……7
Ⅴ　発見された遺構と遺物……9
Ⅵ　まとめ……11
参考文献　……11
抄　録
奥　付

表目次

第1表　京戸川周辺の遺跡……8
第2表　ＳＫ（土坑・ピット）一覧表……10
第3表　出土遺物観察表……12

図版目次

第1図　調査地位置図……4
第2図　調査区グリッド図……5
第3図　基本層序図……6
第4図　周辺の遺跡……8
第5図　調査区全体図……13・14
第6図　遺構配置図……15
第7図　ＳＤ1……16
第8図　ＳＫ……17
第9図　出土遺物実測図……18

写真図版目次

図版1～7　調査状況写真
図版8　出土遺物写真

Ⅰ　調査に至る経緯

山梨県が計画を進めていた県営農林漁業用揮発油税財源身替農道整備事業釈迦堂地区における農道建設工事計画は、笛吹市および甲州市の両市にまたがっており、それぞれ「物見塚遺跡」として埋蔵文化財包蔵地が存在していたため、笛吹市教育委員会と甲州市教育委員会は、事業主である山梨県峡東農務事務所と協議をおこなった結果、果樹の収穫後、県が用地を買収した時点で、遺構の内容および検出面の深度等を把握するための試掘調査を実施することとなった。

試掘調査は、甲州市教育委員会が平成20年12月11日から同15日まで実施した。その結果、縄文式土器の散布や、縄文時代を中心とする竪穴建物跡や土坑などが確認されたことから、甲州市教育委員会は再度調査対象地について峡東農務事務所と協議をおこない、甲州市教育委員会による現場監理のもとで財団法人山梨文化財研究所が発掘調査を実施する体制にて、記録保存を目的とした緊急発掘調査を実施することとなった。山梨県峡東農務事務所、甲州市教育委員会、財団法人山梨文化財研究所による三者協定書を締結し、甲州市教育委員会は平成20年12月19日付けで、山梨県教育委員会に文化財保護法92条に基づく埋蔵文化財発掘の届出を提出し、同年12月24日から発掘調査に着手した。

【調査体制】

○調 査 主 体

財団法人 山梨文化財研究所　理事長　冲永荘八

○調 査 担 当 者

平野　修（財団法人 山梨文化財研究所　考古第３研究室長）

○発掘調査参加者（五十音順）

大久保一吉、櫛原ゆかり、鮫田勝夫、高野まゆみ、田中健二、 辻妙子、筒井　聡、
中込　榊、中澤　保、能登瑛志、萩原　忠、望月　明、若林豊美、渡辺嘉子

○整理作業参加者（五十音順）

岩崎満佐子、角屋さえ子、櫛原ゆかり、須田泰美、竜沢みち子、西海真紀、林　紀子、
広瀬悦子、藤原五月、古郡　明、望月秀和

○指導・監督・助言　　甲州市教育委員会

Ⅱ　調査の経過

平成20(2008)年

12月24日(水)　甲州市地内調査区の重機による表土層除去作業開始。

12月25日(木)　笛吹市地内調査区の重機による表土層除去作業。

12月26日(金)　重機による表土層除去作業すべて終了、凍結防止のため現場養生作業、年内は本日にて調査終了。

平成21(2009)年

１月６日(火)　本調査再開。甲州市地内調査区から着手。人力による遺構確認作業開始。基準点およびグリッド設定。

１月７日(水)　ＳＤ１新設、同遺構掘り下げ、出土遺物取上、撹乱掘り下げ。

１月８日(木)　ＳＤ１掘り下げ、同遺構出土遺物個別写真撮影し随時取上、同遺構調査区北側南面セクション写真撮影および光波測量。

１月９日(金)　降雪のため現場作業休止

１月12日(月)　ＳＤ１掘り下げ、同遺構出土遺物個別写真撮影し随時取上、土坑状遺構および撹乱掘り下げ。

１月13日(火)　ＳＫ１・２・３新設、同遺構セクション写真撮影、ＳＤ１南側セクション写真撮影。

１月14日(水)　ＳＫ１・２・３セクションおよびＳＤ１南側セクション光波測量、ＳＫ４新設、同セクション写真撮影および光波測量、ＳＤ１遺物出土状況および完掘、ＳＫ２・３完掘写真撮影。

１月15日(木)　ＳＫ５～９新設、同遺構セクション・完掘写真撮影および光波測量、笛吹市地内調査区遺構確認作業および撹乱掘り下げ作業開始。

１月16日(金)　笛吹市地内調査区にて遺構確認作業、ＳＩ１新設、同遺構南北セクション写真撮影および光波測量、遺物出土状況写真撮影および遺物取上、その他土坑状・ピット状・溝状遺構等掘り下げ。

１月19日(月)　甲州市地内調査区の写真測量実施に伴う写真撮影および笛吹市地内調査区内グリッド設定、甲州市地内調査区完掘全景等写真撮影、笛吹市地内調査区内ＳＩ２およびＳＫ10～18新設、各遺構セクション写真撮影および光波測量。

１月20日(火)　ＳＩ１炉跡調査、ＳＩ２東西セクション写真撮影および光波測量、遺物出土状況写真撮影および遺物取上、ＳＫ19～23新設

１月21日(水)　ＳＩ１・２柱穴ピット調査、ＳＩ３・４新設、同遺構南北セクション写真撮影および光波測量、ＳＫ24～26新設、ＳＫ21・22・24セクション写真撮影および光波測量。

１月22日(木)　ＳＩ１完掘状況写真撮影、ＳＩ２炉跡調査、ＳＫ25～28完掘写真撮影、ＳＫ27～29新設、X4～5Y8～9グリッドエリア内遺構確認精査。

１月23日(金)　ＳＩ３・４柱穴ピット調査、同ピットセクション光波測量、ＳＫ28等完掘写真撮影、X4～6Y9～10グリッドエリア内遺構確認精査。

１月26日(月)　ＳＫ30～32新設、ＳＩ２炉跡調査後完掘写真撮影、ＳＩ３・４完掘写真撮影、X4～6Y9～10グリッドエリア内遺構確認精査。

１月27日(火)　ＳＫ33～41新設およびセクション写真撮影および光波測量、ＳＫ30～31遺物出土状況兼完掘状況写真撮影、ＳＤ２・３新設。

１月28日(水)　ＳＩ５新設、ＳＫ39等完掘写真撮影、ＳＤ２・３南西セクション写真撮影および光波測量。

１月29日(木)　ＳＩ５東西セクション写真撮影および光波測量、遺物出土状況写真撮影、炉跡調査、ＳＤ４新設、同遺構セクション写真撮影および光波測量機、X4～6Y9～10グリッドエリア内遺構確認精査。

１月30日(金)　ＳＩ５柱穴ピット調査および完掘状況写真撮影、ＳＫ42～44新設、セクション写真撮影お

よび光波測量、ＳＤ２～４完掘状況写真撮影。

２月２日(月)　ＳＩ６～10新設、ＳＫ45～51新設、ＳＩ８・９・ＳＫ47～48東西セクション、ＳＩ８・ＳＫ45～46南北セクション、ＳＩ６・９・ＳＫ51南北セクション写真撮影、ＳＫ42～44完掘状況写真撮影。

２月３日(火)　ＳＩ８・９・ＳＫ47～48東西セクション、ＳＩ８・ＳＫ45～46南北セクション、ＳＩ６・９・ＳＫ51南北セクション光波測量、ＳＫ52新設、同遺構セクション写真撮影および光波測量、X6～8Y10～12グリッドエリア内遺構確認精査。

２月４日(水)　ＳＩ６・７・８・９遺物出土状況写真撮影および遺物取上、ＳＫ53～66新設、同遺構セクション写真撮影および光波測量、ＳＫ45～52完掘状況写真撮影。

２月５日(木)　ＳＩ６・７・８・９・10完掘状況写真撮影、ＳＫ67～69新設、同遺構セクション写真撮影および光波測量、ＳＫ53～69完掘状況写真撮影。

２月６日(金)　X7～9Y12～15グリッドエリア内遺構確認精査。

２月９日(月)　X8～10Y13～15グリッドエリア内遺構確認精査。

２月10日(水)　ＳＫ70～78新設、同遺構セクション写真撮影および光波測量、X8～10Y13～15グリッドエリア内遺構確認精査。

２月11日(木)　ＳＫ70～73・75～78完掘状況写真撮影、ＳＫ79～80新設、同遺構セクション写真撮影および光波測量、X8～10Y13～15グリッドエリア内竪穴状遺構落ち込み掘り下げ、調査区北東隅撹乱内にて旧石器時代遺物を確認。

２月12日(月)　ＳＩ11新設、同遺構東西南北セクション写真撮影および光波測量、ＳＫ81～85新設、同遺構セクション写真撮影および光波測量。

２月13日(火)　ＳＩ12・13・14新設、ＳＫ84～94新設、同遺構セクション写真撮影および光波測量。

２月16日(水)　ＳＩ11・12・13遺物出土状況写真撮影および遺物取上、ＳＫ95～104新設、同遺構セクション写真撮影および光波測量、ＳＫ79・81・83・86～90・104完掘状況写真撮影。

２月17日(木)　ＳＩ11・12・13・14完掘状況写真撮影、ＳＩ11炉調査、ＳＫ105～106新設、同遺構セクション写真撮影および光波測量、ＳＫ93・95～98・105完掘状況写真撮影。

２月18日(木)　ラジコンヘリによる遺跡景観写真撮影および笛吹市地内調査区写真測量実施、同調査区完掘全景写真撮影、X3～5Y6～8グリッド域にて旧石器時代調査開始。

２月19日(木)　ＳＫ107～109新設、同遺構セクション写真撮影および遺物出土状況写真撮影および遺物取上、ＳＩ11・12・ＳＫ106を含む調査区南面セクション光波測量。

２月20日(金)　降雨のため現場作業休止、室内にてデータ整理。

２月23日(月)　X8～10Y14～15グリッド域において旧石器時代調査。

２月24日(火)　ＳＫ107～109完掘状況写真撮影、X9～10Y14～15グリッド域およびX4～5Y7グリッド域において旧石器時代調査。

２月25日(水)　X9～10Y14～15グリッド域をプレＡ地点としX4～5Y7グリッド域をプレＢ地点とする、プレＡ地点東西南北セクション光波測量。

２月26日(木)　プレＡ地点およびプレＢ地点における遺物出土状況写真撮影および遺物取上、両地点において火山灰分析のための土壌サンプルを採取、ＳＫ110～112新設、同遺構セクション写真撮影および光波測量。

２月27日(金)　ＳＫ110～112完掘状況写真撮影、プレＢ地点東西セクション写真撮影および光波測量、機器材撤収作業。

３月以降は、一部出土遺物洗浄作業および本報告書掲載用遺構図版を作成するための光波測量データの整理作業をおこなった。

（国土地理院発行 20 万分の 1 を加工・加筆）

第 1 図　調査地位置図

Ⅲ　調査の方法と基本層序

発掘調査は、前述のとおり本調査実施予定地が甲州市と笛吹市の両市にまたがっていることから、「甲州市分調査区」と「笛吹市分調査区」に分けておこなった。重機による表土剥ぎ作業は、甲州市地内調査区から実施した。表土剥ぎ終了後、開発対象地全体を覆うように国土座標にあわせて、南北方向をＸ軸、東西方向をＹ軸とし、５ｍメッシュを基本とするグリッドを設定した。南西隅を基点として、世界測地系座標Ｘ＝－39520.000、Ｙ＝19680.000を原点（X=0、Y=0）としている。グリッドの名称は南北方向を南からＸ０・Ｘ１・Ｘ２･･･、東西方向を西からＹ０・Ｙ１・Ｙ２･･･とし、南西隅を基点として、Ｘ１Ｙ１グリッドと呼称した。

遺構調査については、すべて人力にて覆土を除去し、発生土の排出についても人力にておこなった。確認された遺構は、構築年代の新しいものから順次おこなったが、一部新旧関係が不明瞭な重複した遺構については、同時に調査をおこない、土層観察等によって新旧関係の決定をおこなった。出土した遺物は、原位置が判明するすべての土器片や石器片等の遺物は、光波測量機によって各出土地点ごとにナンバリングして取り上げた。遺構の断面（セクション）測量についても光波測量とし、平面図については、写真測量も併用した。測量図は光波測量は1/20、写真測量は1/40を基本とした。

光波測量に用いた機器およびシステムは以下のとおりである。

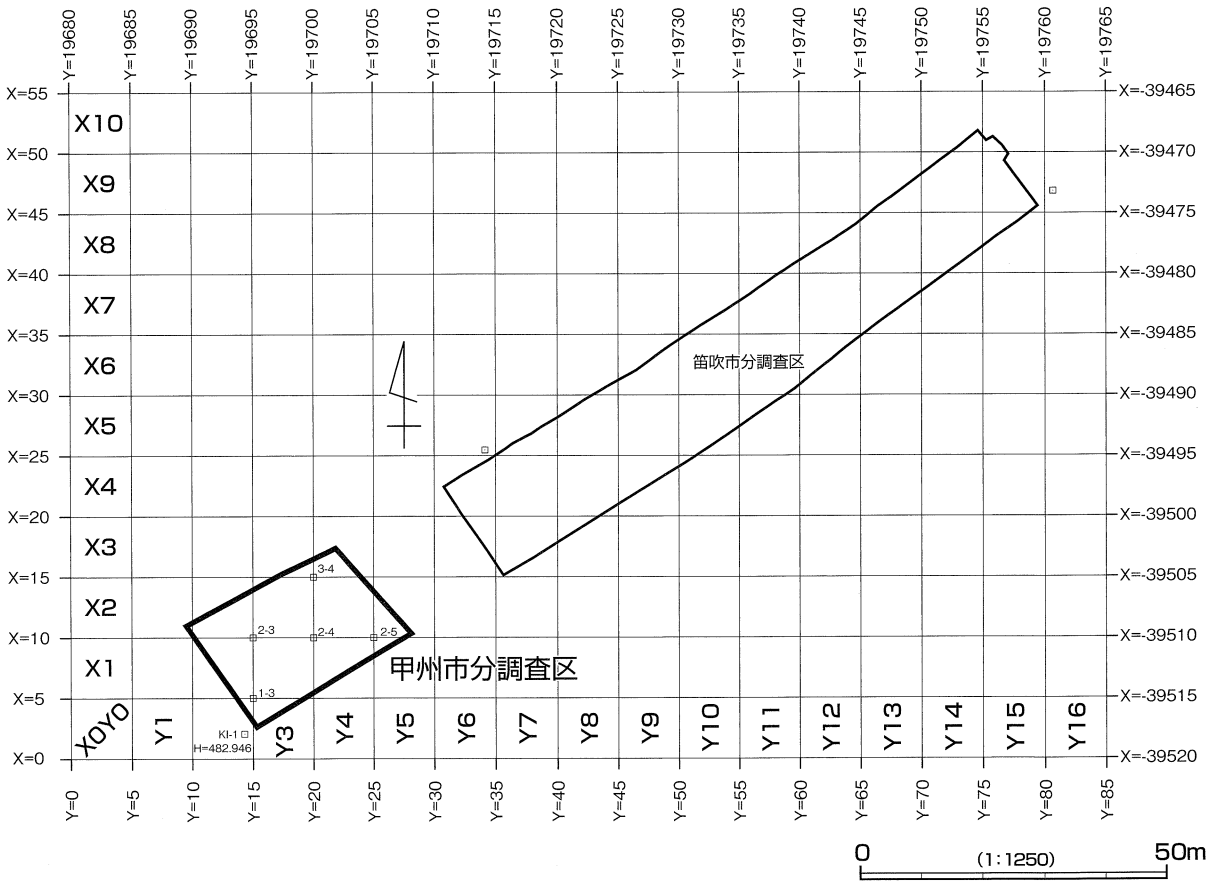
○光波測量機　　TOPCON GTS-320F ⅡA

○データコレクタ　Panasonic TOUGHBOOK CF-18

○取り上げ・図化ソフト　アイシン精機株式会社製　遺構くん ai Ver 1.50

なお、遺構の名称は、以下ような略称を使用した。

○竪穴建物遺構･･･ＳＩ、溝状遺構･･･ＳＤ、土坑およびピット･･･ＳＫ、不明･･･ＳＸ



第２図　調査区グリッド図

基本層序については、当該遺跡地が扇状地であるため、均一的な堆積状況ではないことを考慮に入れつつ、旧石器時代の調査の際に笛吹市地内調査区東端部（プレＡ地点）での状況を示す。プレＡ地点では、現表から約1.8ｍの深度まで掘り下げ、Ⅰ層からⅧ層まで分層した。なお、笛吹市・甲州市両地内の調査区ともに、土壌改良に伴う天地返しや、石の切り出し等で広範に撹乱を受けており、特に甲州市地内調査区では、表土層直下で基盤層の一つである黄褐色砂質土が露出したことから、ここでは、層序を示すことができない。土層色調標記については、『新版標準土色帳』13版（農林省水産技術会議事務所監修　小山正忠・竹原秀雄編・著　1993）に準拠している。

〈基本層序説明〉

第Ⅰ層　表土層（整地層・撹乱等も含む）遺物包含層、小礫・炭化物等含む、約15㎝ほど残存

第Ⅱ層　黒褐色砂質土（10YR2/2）縄文時代早期末以降の遺物包含層、炭化物粒、小礫、黄褐色土ブロックを含む。

第Ⅲ層　褐色砂質土（10YR4/6）縄文時代遺構の掘り込み層位、黄褐色土・黒褐色土ブロック、花崗岩粒、炭化物粒含む。

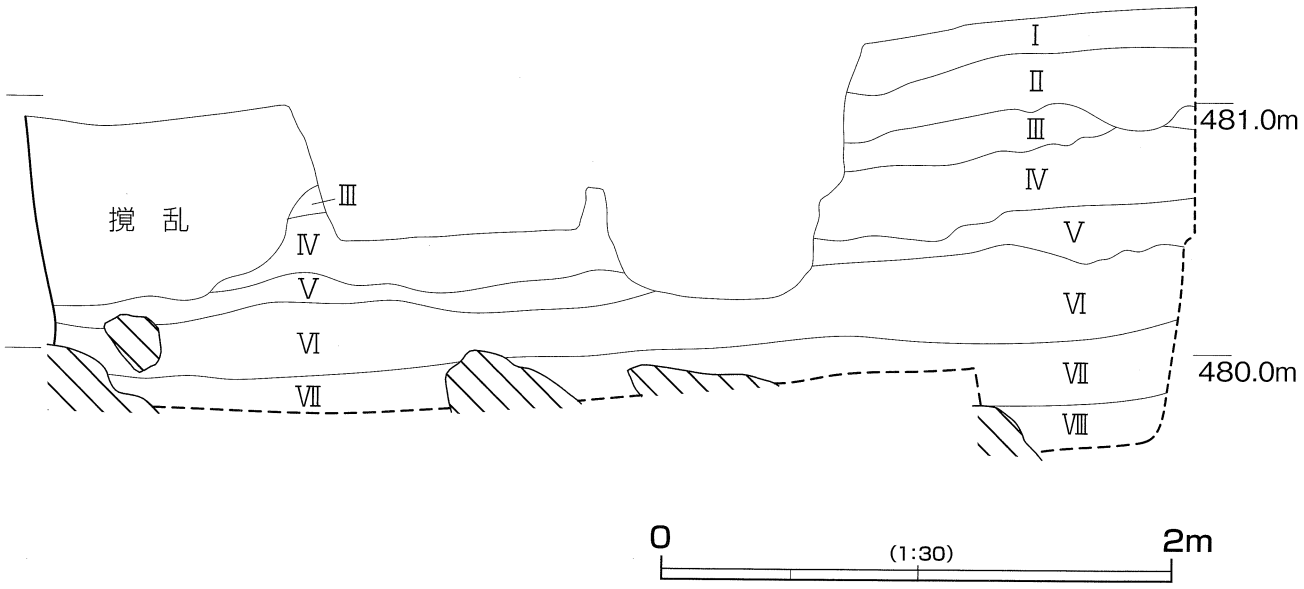
第Ⅳ層　暗褐色砂質土（10YR3/3）黄褐色土・黒褐色土ブロック、花崗岩粒、炭化物粒、１㎜大スコリアを含む。

第Ⅴ層　黄褐色砂質土（10YR5/6）暗褐色土ブロック、花崗岩粒、１～２㎜大スコリアを含む。炭化物粒微量含む。

第Ⅵ層　明黄褐色砂質土（10YR6/8）２～５㎜大スコリア、花崗岩粒〈第Ⅴ層よりやや少ない〉含む、風化した花崗岩・石英閃緑岩を含む。

第Ⅶ層　オリーブ褐色砂質土（2.5Y4/6）小礫やや多く含む、花崗岩粒、５㎜大スコリア極少含む、風化した花崗岩・石英閃緑岩を含む。

第Ⅷ層　オリーブ褐色砂質土（2.5Y4/4）小礫やや多く含む、花崗岩粒含む、風化した花崗岩・石英閃緑岩を含む。



第３図　基本層序図

Ⅳ　遺跡の立地環境と周辺遺跡

物見塚遺跡は、甲府盆地東南部、御坂山地の北麓、笛吹市一宮町と甲州市勝沼町にまたがって分布する京戸川扇状地の扇頂部近くに立地している。遺跡の南側には蜂城山（738 m）、南東側には茶臼山、大沢山などがそびえ立ち、遺跡地の標高は480 m前後を測る。京戸川扇状地は、北を田草川、南側を京戸川および御手洗川によって囲まれる矩形の扇状地で、甲府盆地に発達する扇状地の中では、最も傾斜の大きい急傾斜扇状地である。扇状地の上半部は、巨礫を含む土石流堆積物による土石流凸地であり、あたかも動物の背のように突出した高まりが幾重にも重なった状態で分布しており、地形の微起伏が著しい。まとまった平坦面も少なく、遺跡もこうした突出した高まりの地形面に立地している。扇頂部の水分付近には、諏訪池と呼ばれる湧水池があり、その池にまつわる雨乞いの風習が現在でも残っているという。

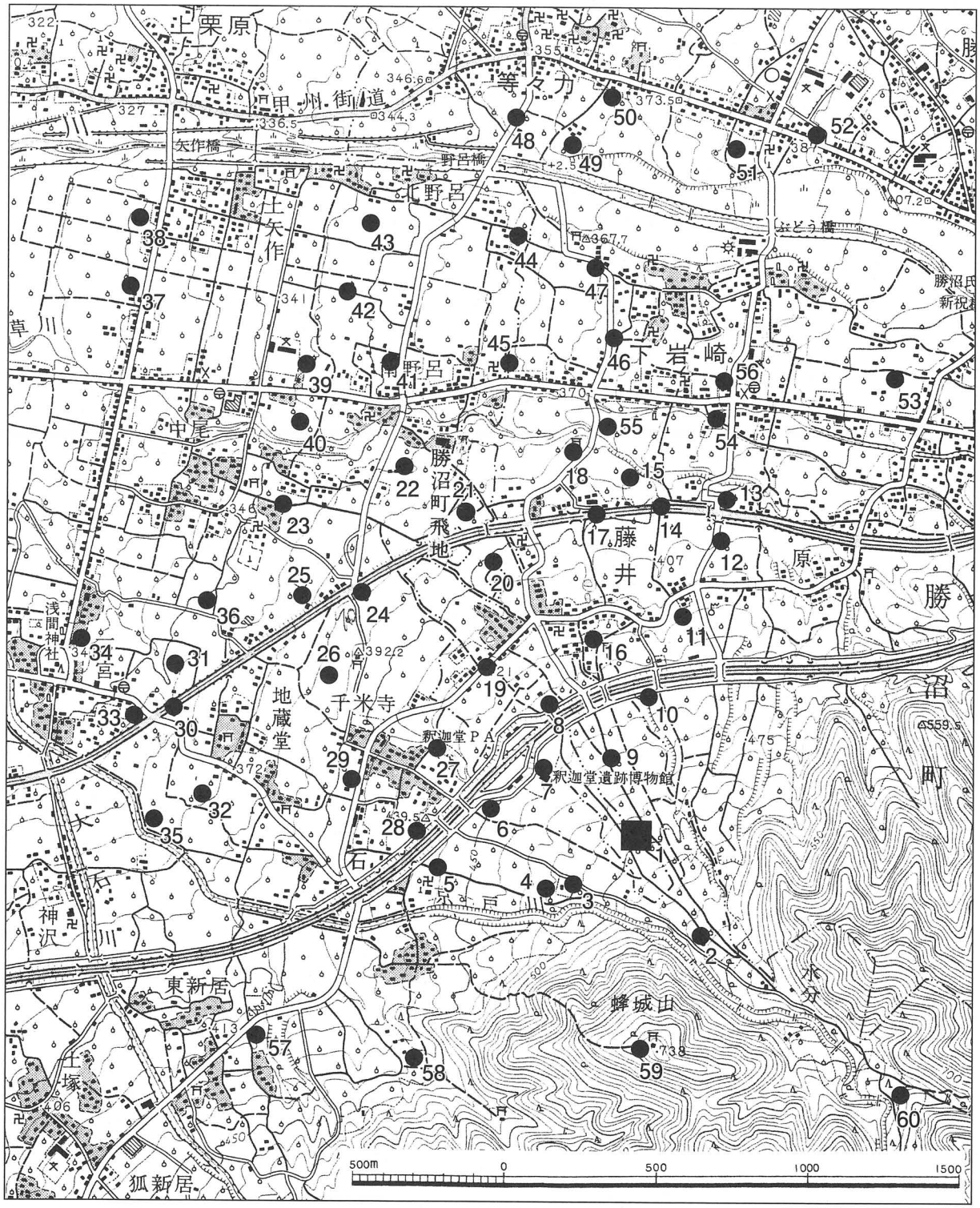
京戸川扇状地には数多くの遺跡が分布している。旧石器時代の遺跡では、釈迦堂遺跡群の塚越Ａ地区があり、ナイフ形石器、スクレーパー、ブレード、ドリルなどが出土している。縄文時代早期の遺跡では、釈迦堂遺跡群塚越北ＡおよびＢ地区で、神ノ木台式期、三口神平地区で下吉井式期の集落跡が発見されている。縄文時代前期の遺跡では、釈迦堂遺跡群塚越北Ａ地区で諸磯ａ式期・ｂ式期の集落が発見されている。縄文時代中期の遺跡では、釈迦堂遺跡群で中期初頭五領ヶ台式期から後葉の曽利式期の大規模集落跡が発見されている。特筆すべきは、1,116 個体に及ぶ土偶が出土していることで、これら土偶は国の重要文化財に指定されている。縄文時代後期・晩期の遺跡は少ないが、釈迦堂遺跡群塚越北Ｂ地区で後期初頭の竪穴建物跡が検出されている。

弥生時代の遺跡は、京戸川扇状地でもその下半部の泥流舌状地に主に分布している。旧東八代郡一宮町域の中尾条里遺跡（亀沢遺跡）で後期の水田遺構が発見されている。田村遺跡では後期の方形周溝墓が１基検出されており、山梨県内で初めて発見された周溝墓として学史的にも重要である。

古墳時代の遺跡では、扇頂部から扇央部にかけて千米寺・石古墳群という群集墳が分布している。一宮町誌（1977）の段階では総数 36 基が確認されおり、その後の調査分析でかつては 68 基の古墳が存在していたと確認されている。発掘調査された事例は少ないが、大塚古墳と釈迦堂遺跡群塚越北Ａ地区で発見された釈迦堂１号墳が発掘調査されており、７世紀後半代の所産とされている。

奈良・平安時代の遺跡も京戸川扇状地では調査例が少ない。その中でも釈迦堂遺跡群釈迦堂地区で鉄製人形や須恵器坏・蓋などが出土した小竪穴遺構は、祭祀遺構として注目される。同遺跡群野呂原地区で皇朝銭である隆平永宝を伴う９世紀後半代の竪穴建物跡が１軒のみ検出されている。天神堂遺跡では、８世紀～９世紀代の竪穴建物跡と掘立柱建物跡が発見されている。方形周溝墓が発見された田村遺跡でも、９～10 世紀代の竪穴建物跡が検出されている。

中世以降の遺跡では、岩崎館跡が京戸川扇状地扇端部に位置し、館北縁に沿って坂戸川が南流し急崖を形成している。昭和 50 年に勝沼バイパス建設に伴い実施された発掘調査では、15 世紀初頭とされる古瀬戸が出土している。また蜂城山は山城、茶臼山は烽火台とされている。



第４図　周辺の遺跡（国土地理院発行 1/25,000「石和」使用）1/20,000

第１表　京戸川周辺の遺跡

1.物見塚	2.日向林	3.山道添	4.鐙塚A	5.鐙塚B	6.塚越北A
7.三口神平	8.野呂原	9.末新田	10.西藤塚	11.大築地	12.雁屋敷
13.岩崎館跡	14.御所畑	15.天神堂	16.上野	17.白川・寺平	18.鉢塚古墳
19.藤井田	20.松本	21.馬込	22.宮田	23.地蔵久保1	24.地蔵久保2
25.妻神	26.本木	27.釈迦堂	28.若宮	29.南屋敷	30.西田
31.西田北	32.十二社	33.田村	34.桜坪	35.柳田	36.早川氏屋敷
37.中尾条里北宮海道	38.桜坪	40.穴地蔵	41.中尾条里神ノ木	42.中尾条里	43.塚田
44.卯ツ木田	45.辻氏屋敷	46.竹之後	47.小泉	48.福泉寺	49.箕輪
50.古町屋	51.富士塚	52.宮之上	53.三本榎	54.祝古墳群	55.古婦毛
56.東畑	57.上三口神	58.桧山田	59.蜂城山	60.東泉寺跡	

V　発見された遺構と遺物

甲州市分の調査区の実質的調査面積は140.3㎡で、発見された遺構は、ＳＤ（溝状遺構）１条と、ＳＫ（土坑・ピット）９基である。

１．SD（溝状遺構）

ＳＤ１（第７図）

（位置） X1～2・Y1～4グリッドに位置している。

（規模等） 上端の幅員は最大で約４ｍを測り、確認面からの深さは最大で1.1ｍを測り、深さは一定している。溝の断面形は底面付近がやや段をもつような鍋形を呈するが、上端にいくに従いラッパ状に広がっている。

（重複・検出状況） ＳＫ２・３・５と重複するが、新旧関係は不明。北東方向から南西方向に細かく蛇行しながら流下している。検出された範囲内の中央部付近と南西端付近には、土石流に伴う人頭大以上の礫が集中しており、砂礫の堆積も顕著であることから、自然流路の一部である可能性は極めて高い。

本遺構は、土層観察に伴う砂礫層の存在から少なくとも３段階の変遷を辿ることができる。第１段階の砂礫層は、底面上約30㎝の厚さで大型礫を含む砂礫が堆積している。第２段階の砂礫層は第４層中てみられ、厚さは10㎝前後を測る。第３段階の砂礫層は第２層中でみられ、厚さは数㎝程度のものである。出土している大半の礫は第５～９層中から出土しており、出土した土器類も同層中から大半が出土している。

（出土遺物） 出土遺物は、縄文時代早期末から前期初頭、前期後葉、中期、土師器片までの時期差をもつ土器群が出土しており、その大半が小片で、流勢によるローリング痕跡が著しい。よって出土した土器群は検出された周辺から流れ込んだものではなく、上流域から流下してきた可能性が高い。

（時期） 自然流路の性格上、幅広い時期の土器群が出土していることから、所属時期の特定は極めて難しい。よって出土土器の中で一番新しい土師器の存在から、９～10世紀以降の所産と考えておきたい。

２．SK（土坑・ピット）（第８図）

土坑は前述のとおり総計９基検出されている。これら土坑は、出土遺物が皆無であるものがほとんどで、唯一、ＳＫ６から打製石斧状石器が出土したに過ぎず、その時期や性格等を特定するのは非常に困難な状況にある。

ＳＫ１

X0・Y2・3グリッドに位置し、その半分以上が調査区外にかかっている。平面形態は不明で、現存長軸規模は推定で約１ｍ、確認面からの深さは約60㎝を測る。出土遺物はなし。

ＳＫ２

X1・Y3グリッドに位置し、ＳＫ３・５と重複し、ＳＫ５を切り込んで構築。ＳＫ３との新旧関係は不明。楕円形を呈し、現存長軸規模は1.2ｍ、短軸1.1ｍを測り、確認面からの深さは最大で約43㎝を測る。出土遺物はなし。

ＳＫ３

X1･Y3グリッドに位置し、ＳＫ2･5と重複し、ＳＫ５を切り込んで構築。ＳＫ２との新旧関係は不明。楕円形を呈し、長軸規模は90㎝、短軸は84㎝を測る。出土遺物はなし。

ＳＫ４

X0・Y3グリッドに位置し、撹乱坑によって大半を欠失している。現存長軸規模は70㎝、確認面

からの深さは約 20 cmを測る。出土遺物はなし。

ＳＫ５

X1・Y3 グリッドに位置し、ＳＫ２・３と重複し、ＳＫ２・３に切り込まれている。平面形態および規模ともに不明。確認面からの深さは約 12 cmを測る。出土遺物はなし。

ＳＫ６

X2・Y2 グリッドに位置し、不整楕円形を呈し、長軸規模は 1.15 m、短軸は 0.96 mを測る。確認面からの深さは、最大で約 15 cmを測る。出土遺物は、打製石斧状石器が１点出土している。

ＳＫ７

X2・Y3 グリッドに位置し、ＳＫ８・９と重複する。ＳＫ８を切り込んで構築。隅丸長方形を呈し、長軸規模は 1.2 m、短軸は 1.0 mを測り、確認面からの深さは最大で 35 cmを測る。底面に長軸 0.70 m、短軸 0.55 mの規模を測る楕円形を呈する掘りかたを有する。出土遺物はなし。

ＳＫ８

X2·Y3 グリッドに位置し、ＳＫ７・９と重複する。ＳＫ７に切り込まれ、ＳＫ９を切り込んで構築。楕円形を呈し、現存長軸規模は 75 cm、確認面からの深さは 15 cmを測る。出土遺物はなし。

ＳＫ９

X2·Y3 グリッドに位置し、ＳＫ８に切り込まれている。楕円形を呈し、現存長軸規模は 1.2 m、短軸 1.1 mを測り、確認面からの深さは最大で約 43 cmを測る。出土遺物はなし。

第２表　SK（土坑・ピット）一覧表

SKNo.	挿図番号	位置 (Grid)	重　複	平面形態 (　)＝推定	長　軸(m) (　)＝推定値 [　]＝現存値	短　軸(m) (　)＝推定値 [　]＝現存値	深さ(m)	備　　考
SK1	第8図	X0Y2・3	なし	—	(1.00)	—	0.60	
SK2	第8図	X1Y3・4	SK3・5、SD1	不正楕円形	1.20	1.10	0.43	
SK3	第8図	X1Y3	SK2・5	(不正楕円形)	0.94	0.80	0.20	
SK4	第8図	X0Y3	なし	—	[0.70]	—	0.20	
SK5	第8図	X1Y3	SK2・3、SD1	—	—	—	0.12	
SK6	第8図	X2Y2・3	なし	不正楕円形	1.15	0.96	0.15	打製石斧状石器
SK7	第8図	X2Y3	SK8	隅丸長方形	1.20	1.00	0.35	
SK8	第8図	X2Y3	SK7・9	(楕円形)	[0.75]	(0.65)	0.15	
SK9	第8図	X2Y3	SK8	楕円形	[0.70]	0.52	0.14	

Ⅵ　まとめ

本調査区では、調査の結果、縄文時代早期末から前期後半代の所産と思われる土坑、ピット、溝状遺構が検出されている。各遺構の検出総数は、土坑、ピット（ＳＫ）９基、溝状遺構（ＳＤ）１条である。本調査区は土壌改良による天地返しが著しく、遺物包含層はほとんど削平された状況で、遺構の遺存状況も極めて悪い。出土した遺物の総量は、幅 34 ㎝、長さ 49.5 ㎝、深さ 26 ㎝のプラスチックコンテナにして、１箱の約 1/4 程度で非常に少ない。

土坑・ピットからの遺物の出土はほとんどなく、唯一、ＳＫ９から打製石斧が１点出土しているに過ぎない。

一方、溝状遺構であるＳＤ１は、自然流路と思われ、細かに蛇行しながら南東から北西方向に流下している。流路内には巨礫を含む、かなりの流水量があったことを物語る砂礫層が認められる。

溝の規模は、幅約３～４ｍ、確認面からの深さは約１ｍ前後を測る。堆積土の状況から、少なくとも３時期にわたる変遷が認められ、最下層部の砂礫層からは縄文時代前期後半代を中心とする土器片が出土している他、縄文時代早期末から前期初頭、中期の土器片もみられる　また、同層位中からは細片ながら９～10 世紀の所産と思われる土師器片も出土している。

出土した土器は、いずれも水流による摩耗が著しく、本調査区内でも同時期の遺構が認められず、上流域には日向林遺跡などの縄文時代前期の遺跡が存在することから、上流域からの流れ込みの可能性が高い。本流路の所属時期については、溝という性格上その年代決定が難しく、出土遺物の年代およびその出土状態から、縄文式土器とほぼ同じ層位から出土している土師器片の存在から、現段階では９～10 世紀以降の所産を考えざるを得ない。

最後に、極寒の中、現場作業に直接携わっていただいた作業スタッフの皆さんをはじめ、本調査全般にわたりご指導、ご教示、ご協力をいただいた関係諸機関、各位には心から感謝申し上げるとともに、今回の物見塚遺跡の発掘調査成果が、今後の山梨県における考古学研究進展の一助となれば望外なる喜びである。

参考文献

小野正文他　1986『釈迦堂Ⅰ』山梨県埋蔵文化財センター調査報告第 17 集

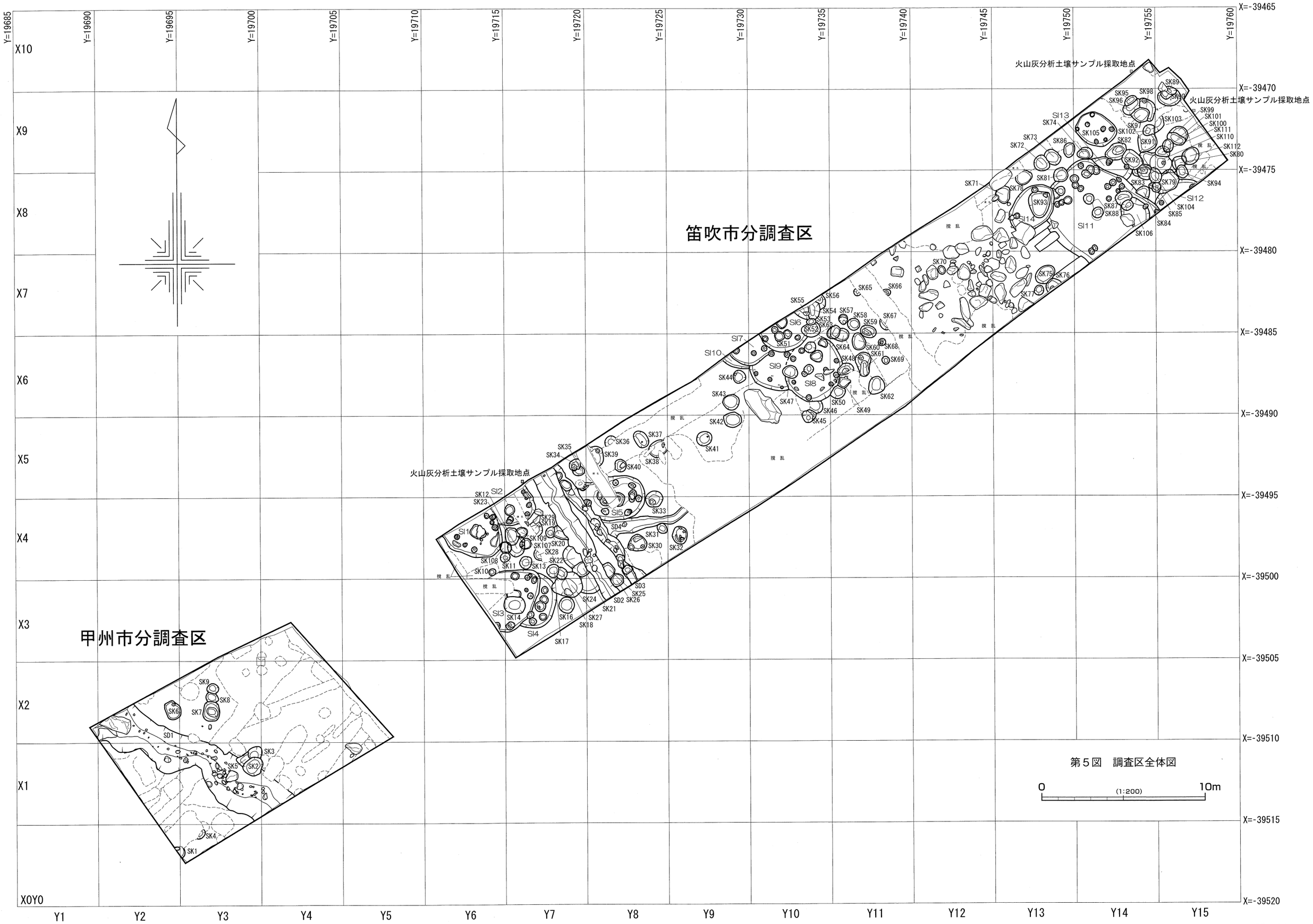
釈迦堂遺跡博物館建設促進期成同盟会　1983『釈迦堂遺跡周辺分布調査報告書』

瀬田正明　1992『'92 第４回特別展　縄文世界の形成』釈迦堂遺跡博物館

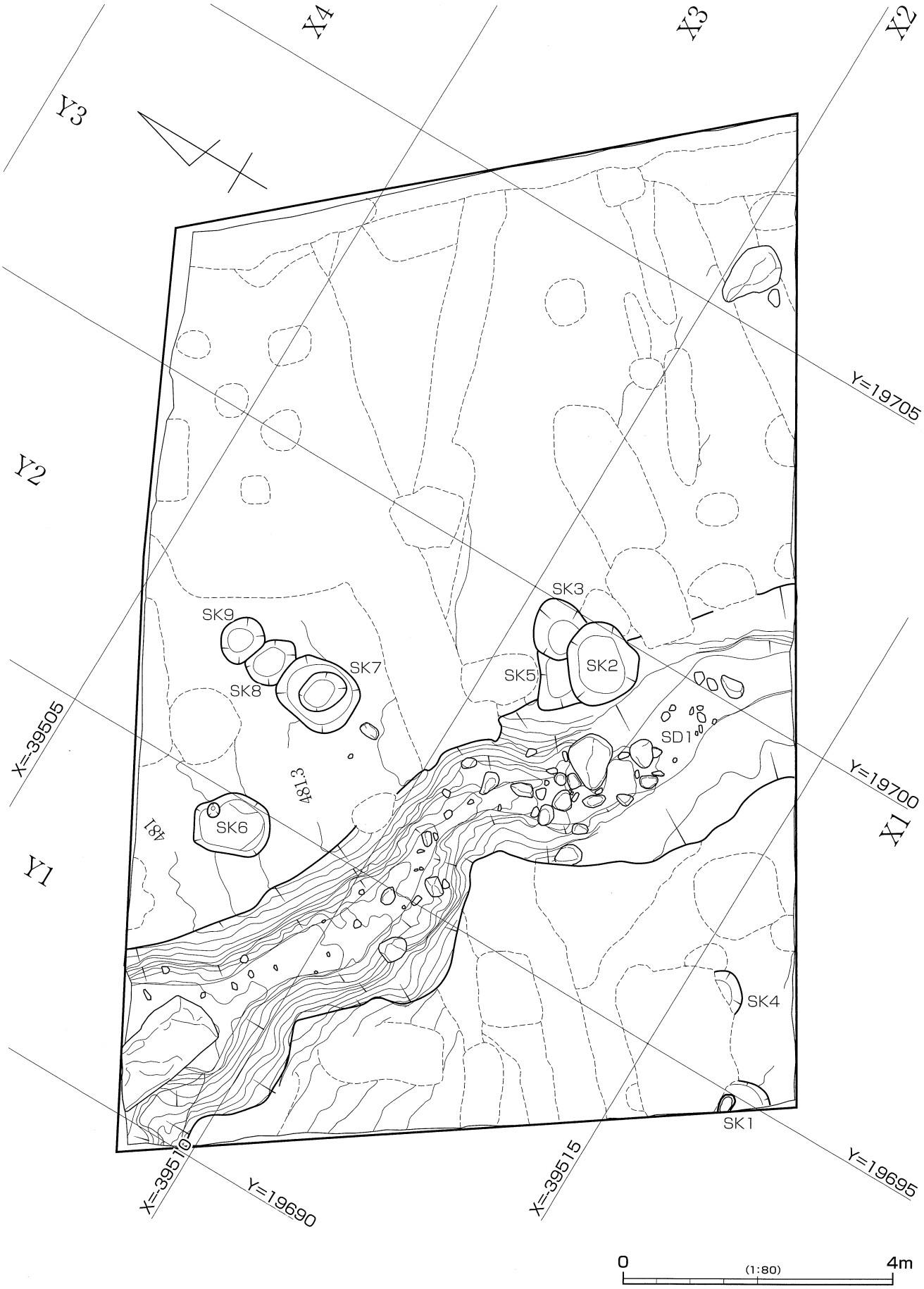
山梨県　1999『山梨県史 資料編２原始・古代２』

第３表　出土遺物観察表

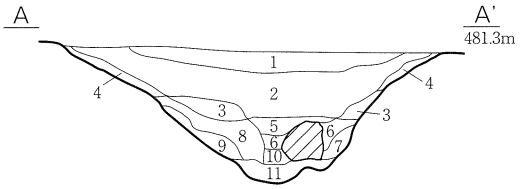
遺物番号	出土地点	種別	器種	部位・形態	整形・施文技法(外)	調整技法(内)	色調(外・内)	胎土	注記	実測番号	備考
1	SD1	縄文	深鉢	胴部	ナデ	ナデ	(外)明褐(内) 黒褐	やや粗（白・赤・黒色粒子、繊維、小礫わずかに含む）	MOSD1-30	12	早～前期、下吉井式期か
2	SD1	縄文	深鉢	口縁部	半截竹管による連続刺突および爪形文	ナデ	赤褐	密（白・黒色粒子、雲母）	MOSD1-28	11	
3	SD1	縄文	深鉢	胴部	押捺沈線文（半截竹管文）？、ナデ	ナデ	にぶい黄橙	やや粗（黒・白色粒子、雲母）	MOSD1-3	1	
4	SD1	縄文	深鉢	胴部	縄文、沈線	ナデ	にぶい赤褐	やや粗（大粒白色粒子、黒色粒子、雲母）	MOSD1-35	15	補修孔あり
5	SD1	縄文	深鉢	胴部	無節縄文	ナデ	にぶい赤褐	やや粗（白・黒色粒子、雲母）	MOSD1-20	7	
6	SD1	縄文	深鉢	胴部	半截竹管による平行沈線	ナデ	にぶい赤褐	やや粗（白・黒色粒子、雲母、小礫わずかに含む）	MOSD1-31	13	
7	SD1	縄文	深鉢	胴部	沈線、ナデ	ナデ	明褐	やや粗（白・黒・赤色粒子、雲母）	MOSD1-6	2	
8	SD1	縄文	深鉢	底部	縄文	ナデ	赤褐	やや粗（大粒白色粒子、黒色粒子、雲母）	MOSD1-19	6	
9	SD1	縄文	深鉢	胴部	縄文	ナデ	赤褐	やや粗（白・黒色粒子、雲母）	MOSD1-22	8	
10	SD1	縄文	深鉢	底部	縄文	ナデ	赤褐	やや粗（白・黒色粒子、雲母）	MOSD1-11	4	
11	SD1	縄文	深鉢	胴部	半截竹管による沈線	ナデ	暗褐	やや粗（大粒白色粒子、黒・赤色粒子、雲母）	MOSD1-34	14	
12	SD1	縄文	深鉢	胴部		ナデ	褐	密（黒色粒子、大粒白色粒子、赤色粒子、雲母）	MOSD1-25	9	
13	SD1	縄文	深鉢	底部	縄文	ナデ	にぶい赤褐	やや粗（大粒白色粒子、黒色粒子）	MOSD1-37	16	
14	SD1	縄文	深鉢	胴部	条痕文？	ナデ	にぶい黄橙	やや粗（白・黒色粒子、雲母）	MOSD1-26	10	
15	SD1	縄文	深鉢	胴部	カキ目？	ナデ	黒褐	密（雲母・白色粒子）	MOSD1-14	5	輪積痕
16	SD1	土師	坏	体部	ロクロナデ	ロクロナデ	橙	やや粗（赤・黒色粒子）	MOSD1-7	3	
17	SK6	石	－	－	長7.4・幅2.9・厚1.3cm、重さ37.3g	－	浅黄	石材：砂岩	MOSK-6	27	
18	X0Y3	縄文	深鉢	胴部	縄文、半截竹管による沈線、ナデ	ナデ	赤褐	やや粗（大粒白色粒子、黒色粒子、雲母）	MOX0Y3グ	17	
19	X0Y3	縄文	深鉢	胴部	縄文	ナデ	黒褐	粗（大粒白色粒子、黒色粒子、雲母）	MOX0Y3グ	18	
20	X1Y2	縄文	深鉢	胴部	縄文	ナデ	明赤褐	やや粗（白・黒色粒子、雲母）	MOX1Y2グ	20	
21	X1Y2	縄文	深鉢	胴部	縄文、連続刺突文	ナデ	暗赤褐	やや粗（白・黒色粒子、雲母）	MOX1Y2グ	19	
22	X1Y2	縄文	深鉢	胴部	縄文	ナデ	にぶい褐	やや粗（白・黒色粒子、雲母）	MOX1Y2グ	21	
23	X1Y3	縄文	深鉢	胴部	縄文、半截竹管による沈線、ナデ	ナデ	褐	やや粗（大粒白色粒子、黒色粒子、雲母）	MOX1Y3グ	23	
24	X1Y3	縄文	深鉢	胴部	条痕文？	ナデ	赤褐	密（黒・白・赤色粒子、雲母）	MOX1Y3グ	22	


笛吹市分調査区
甲州市分調査区
火山灰分析土壌サンプル採取地点
火山灰分析土壌サンプル採取地点
火山灰分析土壌サンプル採取地点
撹乱
SI1
SI2
SI3
SI4
SI5
SI6
SI7
SI8
SI9
SI10
SI11
SI12
SI13
SI14
SD1
SD2
SD3
SD4
SK1
SK2
SK3
SK4
SK5
SK6
SK7
SK8
SK9
SK10
SK11
SK12
SK13
SK14
SK16
SK17
SK18
SK19
SK20
SK21
SK22
SK23
SK24
SK25
SK26
SK27
SK28
SK29
SK30
SK31
SK32
SK33
SK34
SK35
SK36
SK37
SK38
SK39
SK40
SK41
SK42
SK43
SK44
SK45
SK46
SK47
SK48
SK49
SK50
SK51
SK52
SK53
SK54
SK55
SK56
SK57
SK58
SK59
SK60
SK61
SK62
SK63
SK64
SK65
SK66
SK67
SK68
SK69
SK70
SK71
SK72
SK73
SK74
SK75
SK76
SK77
SK78
SK79
SK80
SK81
SK82
SK83
SK84
SK85
SK86
SK87
SK88
SK89
SK90
SK91
SK92
SK93
SK94
SK95
SK96
SK98
SK99
SK100
SK101
SK102
SK103
SK104
SK105
SK106
SK107
SK108
SK109
SK110
SK111
SK112
X=-39465
X=-39470
X=-39475
X=-39480
X=-39485
X=-39490
X=-39495
X=-39500
X=-39505
X=-39510
X=-39515
X=-39520
Y=19685
Y=19690
Y=19695
Y=19700
Y=19705
Y=19710
Y=19715
Y=19720
Y=19725
Y=19730
Y=19735
Y=19740
Y=19745
Y=19750
Y=19755
Y=19760
X10
X9
X8
X7
X6
X5
X4
X3
X2
X1
X0Y0
Y1
Y2
Y3
Y4
Y5
Y6
Y7
Y8
Y9
Y10
Y11
Y12
Y13
Y14
Y15
0
(1:200)
10m

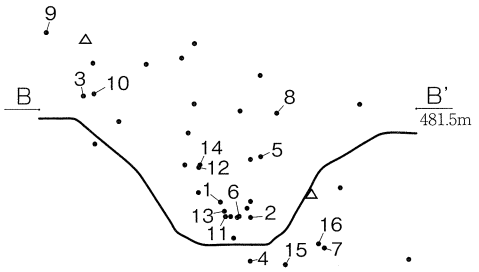
第５図　調査区全体図

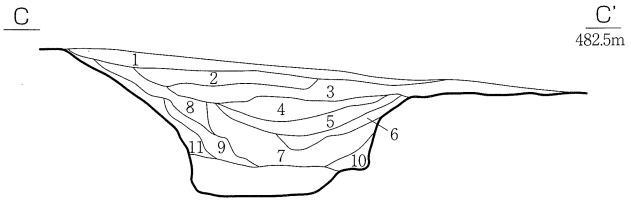

X4
X3
X2
X1
Y3
Y2
Y1
Y=19705
Y=19700
Y=19695
Y=19690
X=-39505
X=-39510
X=-39515
SK1
SK2
SK3
SK4
SK5
SK6
SK7
SK8
SK9
SD1
481.3
481
0
(1:80)
4m

第６図　遺構配置図



1 黄褐色砂質土(10YR5/6)
2 褐色砂質土(10YR4/4)黄褐色土粒含む、炭化物少含む
3 褐色砂質土(10YR4/6)黄褐色土粒多く含む
4 黄褐色砂質土(10YR5/8)
5 にぶい黄褐色砂質土(10YR4/3)黄褐色土粒多く含む、小礫少含む
6 にぶい黄褐色砂質土(10YR4/3)黄褐色土粒・小礫ともやや多く含む
7 にぶい黄褐色砂質土(10YR4/3)黄褐色土ブロック、小礫含む
8 黒褐色砂質土(10YR3/2)黄褐色土小ブロック、砂粒含む
9 褐色砂質土(10YR4/6)黄褐色土小ブロック、砂粒含む
10 砂礫
11 砂礫



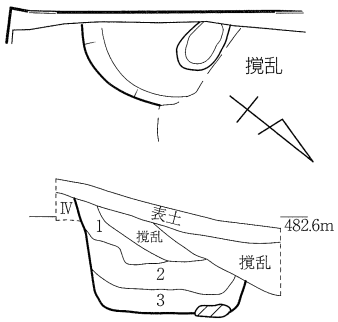


1 褐色砂質土(10YR4/6)黄褐色土粒含む
2 褐色砂質土(10YR4/6)黄褐色土ブロック多く含む、砂礫一部含む
3 褐色砂質土(10YR4/4)黄褐色土粒含む
4 にぶい黄褐色砂質土(10YR5/4) 砂礫含む
5 暗褐色砂質土(10YR3/3)黄褐色土粒、小礫含む
6 暗褐色砂質土(10YR3/3)黄褐色土ブロック含む、砂礫少含む
7 暗褐色砂質土(10YR3/3)黄褐色土多く含む、砂礫含む
8 暗褐色砂質土(10YR3/4)黄褐色土ブロック含む、小礫含む
9 にぶい黄褐色砂質土(10YR4/3)黄褐色土ブロック含む、小礫含む
10 褐色砂質土(10YR4/4)黄褐色土ブロック含む、小礫含む
11 にぶい黄褐色砂質土(10YR5/4)黄褐色土ブロック多く含む
12 砂礫

0 (1:60) 2m

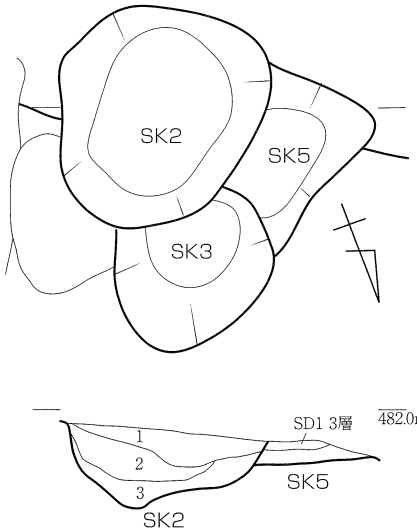
第7図　ＳＤ１

SK1



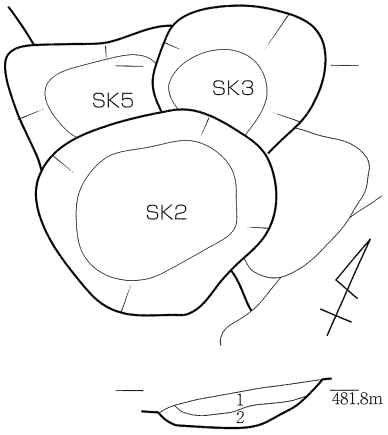
1 褐色砂質土(10YR4/4)花崗岩粒、
炭化物粒含む
2 暗褐色砂質土(10YR3/3)花崗岩粒、
黄褐色土小ブロック、スコリア含む
3 暗褐色砂質土(10YR3/4)花崗岩粒、
黄褐色土小ブロック、スコリア含む
Ⅳ 暗褐色砂質土(10YR3/3)
黄褐色土・黒褐色土ブロック、
花崗岩粒、炭化物粒、1㎜大スコリア含む

SK2・5



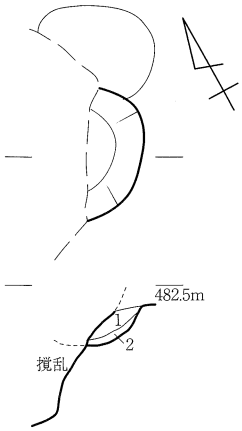
1 にぶい黄褐色砂質土(10YR4/3) 黄褐色土粒、花崗岩粒含む
2 褐色砂質土(10YR4/4)花崗岩粒、小礫・黄褐色土ブロック含む
3 褐色砂質土(10YR4/6)黄褐色土 ブロック含む

SK3



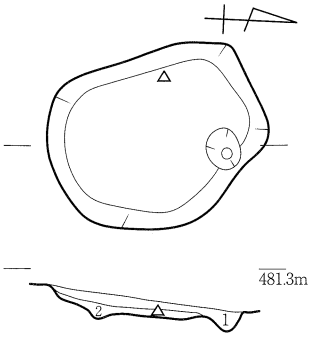
1 褐色砂質土(10YR4/6)
黄褐色土粒、花崗岩粒含む
2 にぶい黄褐色砂質土(10YR5/4)

SK4



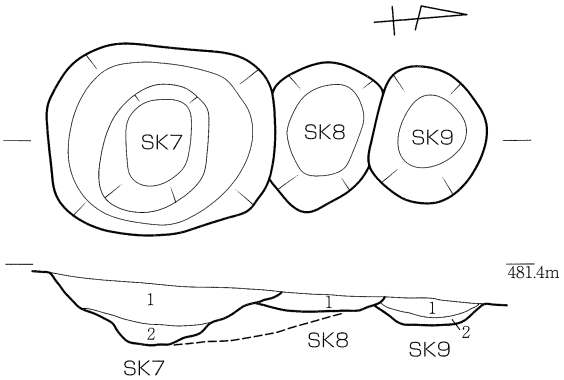
1 褐色砂質土(10YR4/6)
黄褐色土粒、花崗岩粒含む
2 にぶい黄褐色砂質土(10YR4/3)
黄褐色土小ブロック含む

SK6



1 褐色砂質土(10YR4/6)
黄褐色土粒、花崗岩粒含む
2 にぶい黄褐色砂質土(10YR4/3)
黄褐色土小ブロック含む

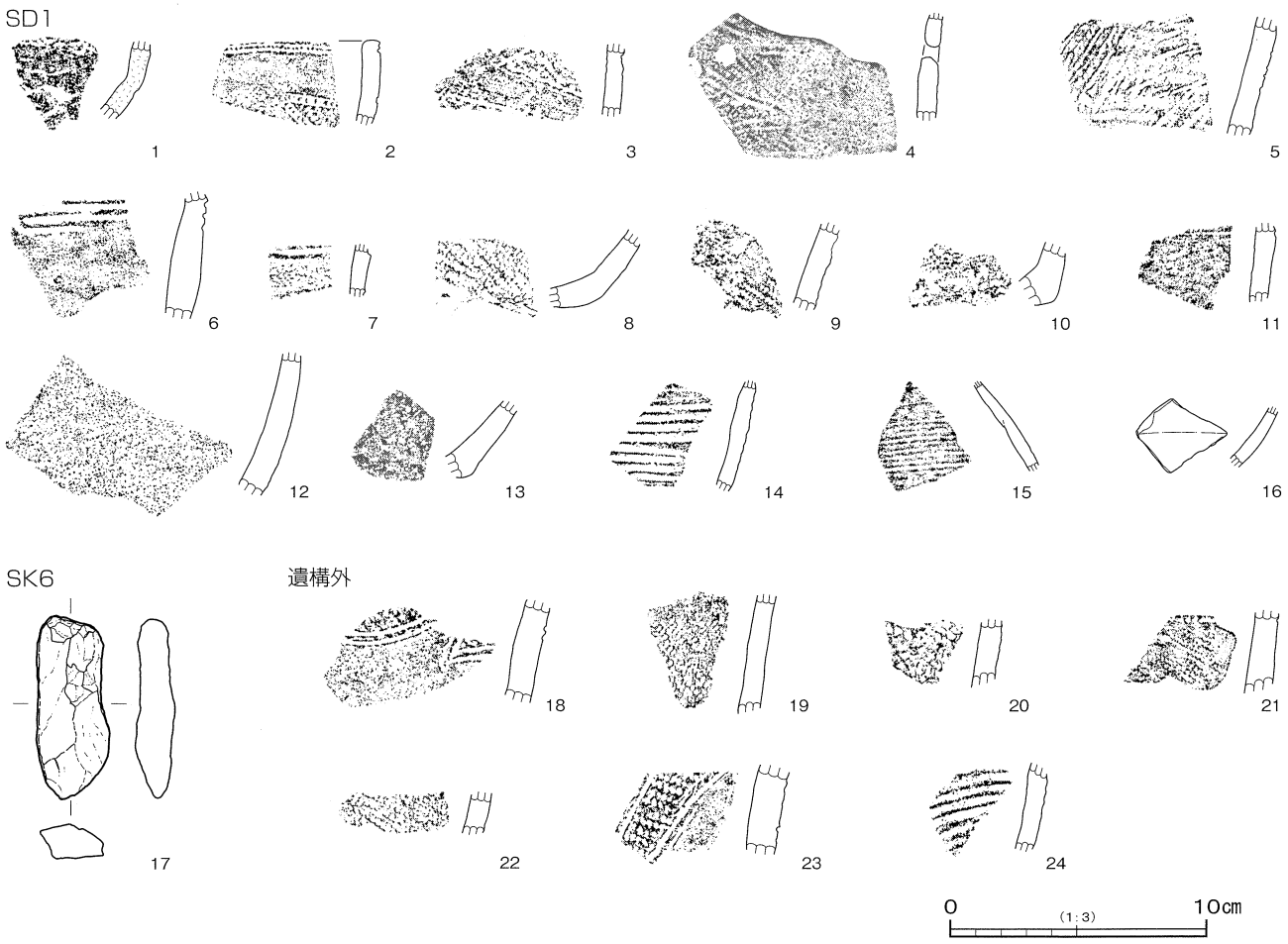
SK7・8・9



<SK7>
1 褐色砂質土(10YR4/6)黄褐色土粒、花崗岩粒含む
2 にぶい黄褐色砂質土(10YR4/3)黄褐色土小ブロック含む
<SK8>
1 にぶい黄褐色砂質土(10YR5/4)花崗岩粒含む
<SK9>
1 褐色砂質土(10YR4/6)黄褐色土粒、花崗岩粒含む
2 にぶい黄褐色砂質土(10YR4/3)黄褐色土小ブロック含む

0 (1:40) 1m

第8図　ＳＫ


SD1
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
SK6
17
遺構外
18
19
20
21
22
23
24
0
(1:3)
10cm

第９図　出土遺物実測図

遺跡遠景（南から）

遺跡遠景（西から）

図版２

物見塚遺跡全景（合成、上が北）

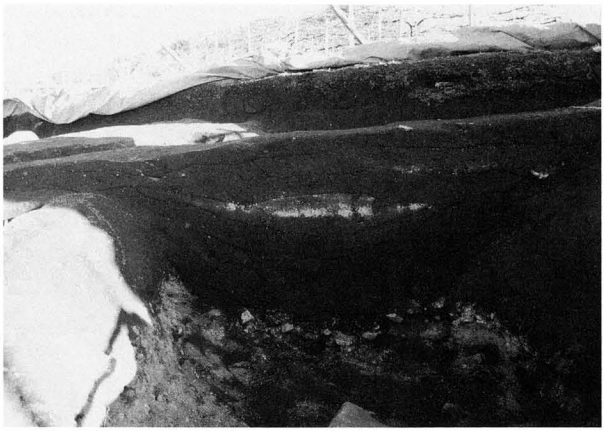
物見塚遺跡調査区全景（合成、上が北）

SD1 完掘（南西から）

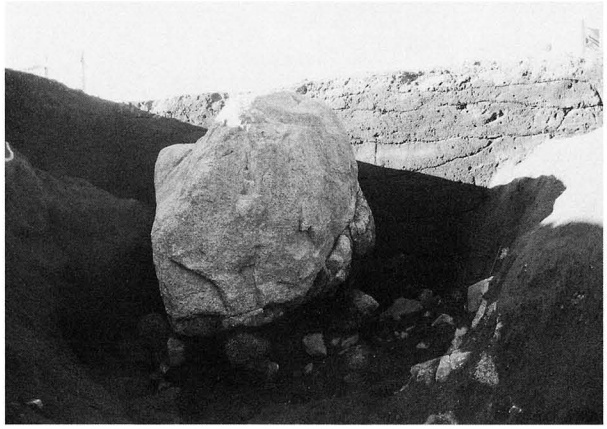
SD1 完掘（北東から）

図版 4

SD1 北側南面セクション



SD1 南側セクション



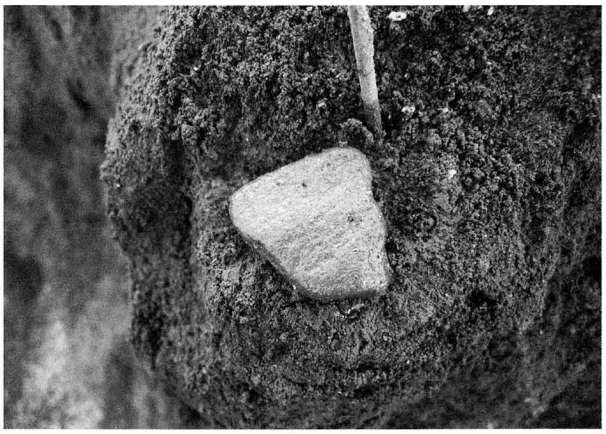
SD1 内巨石出土状況

SD1 遺物出土状況

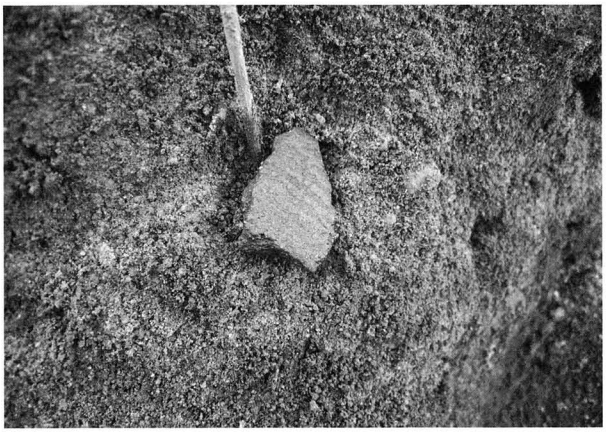
SD1 遺物出土状況

SD1 遺物出土状況

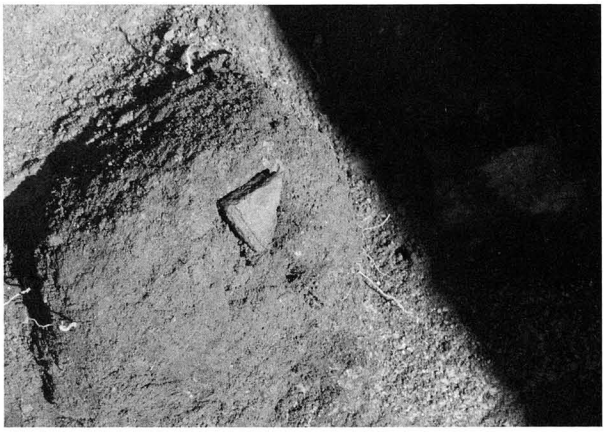
SD1 遺物出土状況



SD1 遺物出土状況



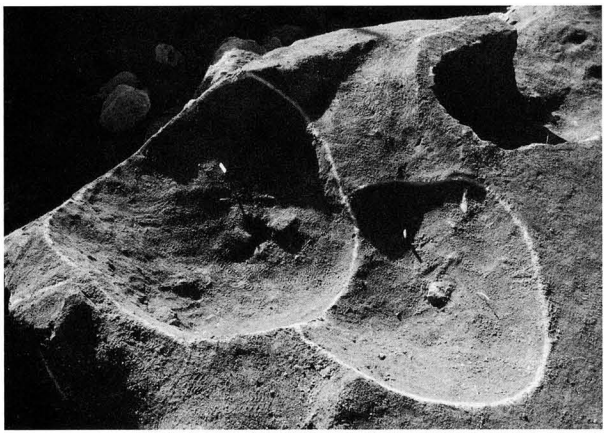
SD1 遺物出土状況



SD1 遺物出土状況

SD1 遺物出土状況

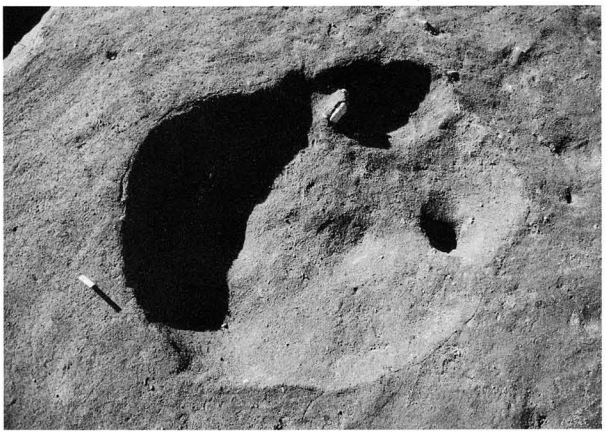
SK1 完掘



SK2・3 完掘

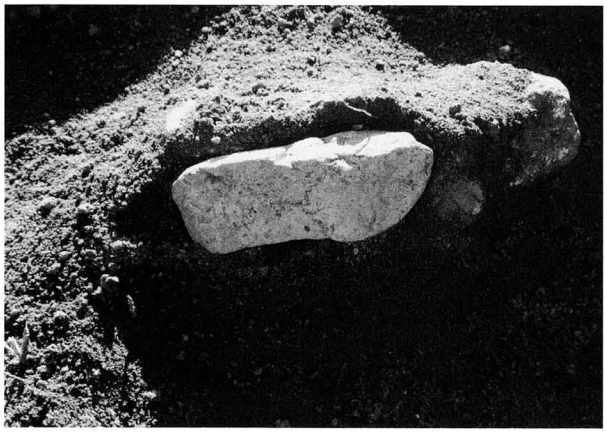
SK4 完掘

SK5 完掘



SD6 完掘、遺物出土状況

図版 6



SK6 出土遺物

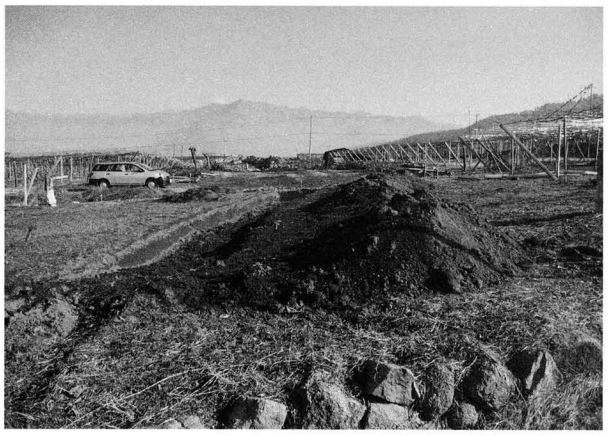
SK7・8・9 完掘

SK7・8 セクション

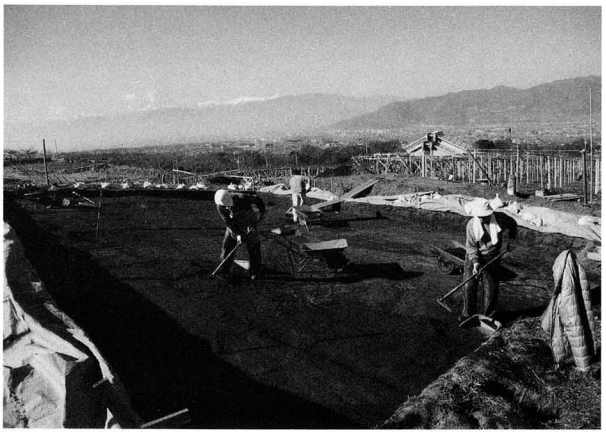
SK9 セクション

重機による表土剥ぎ作業風景

ポールによる写真測量実施風景

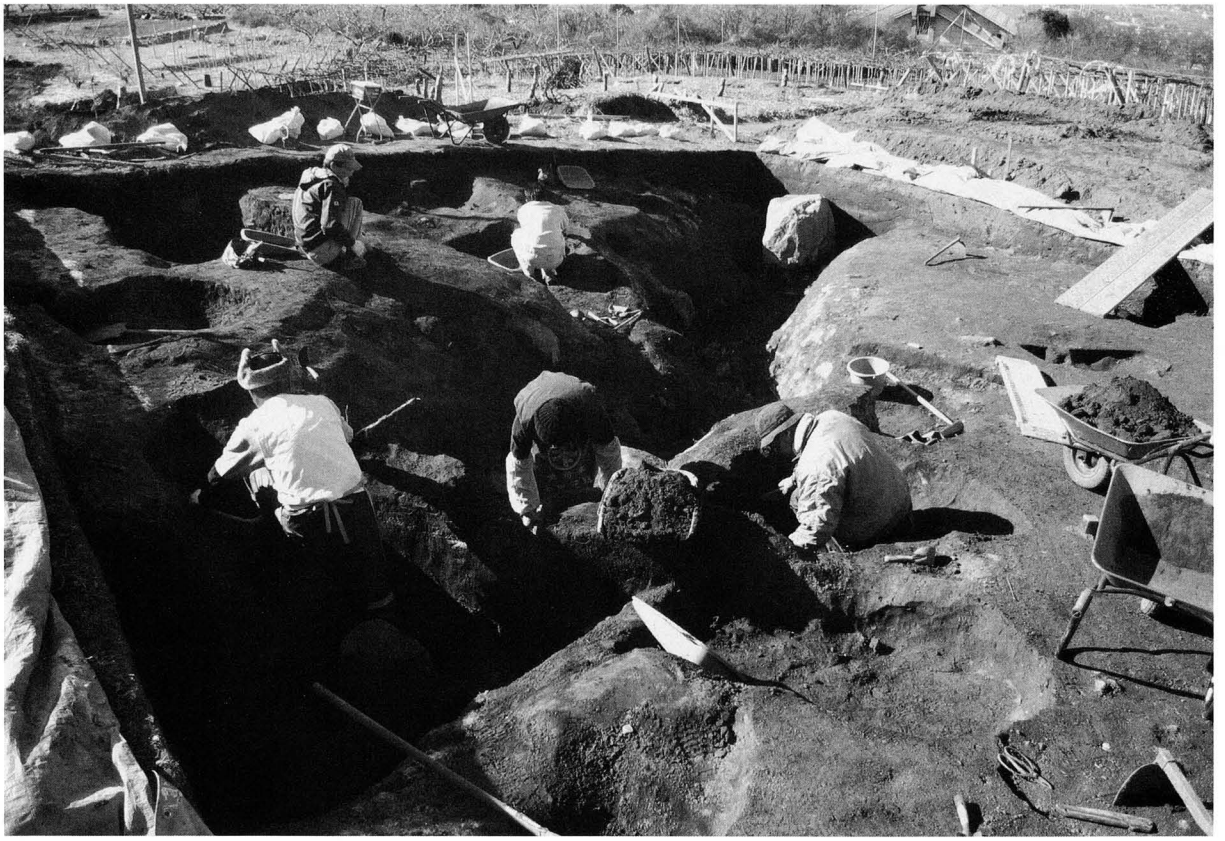


調査前状況



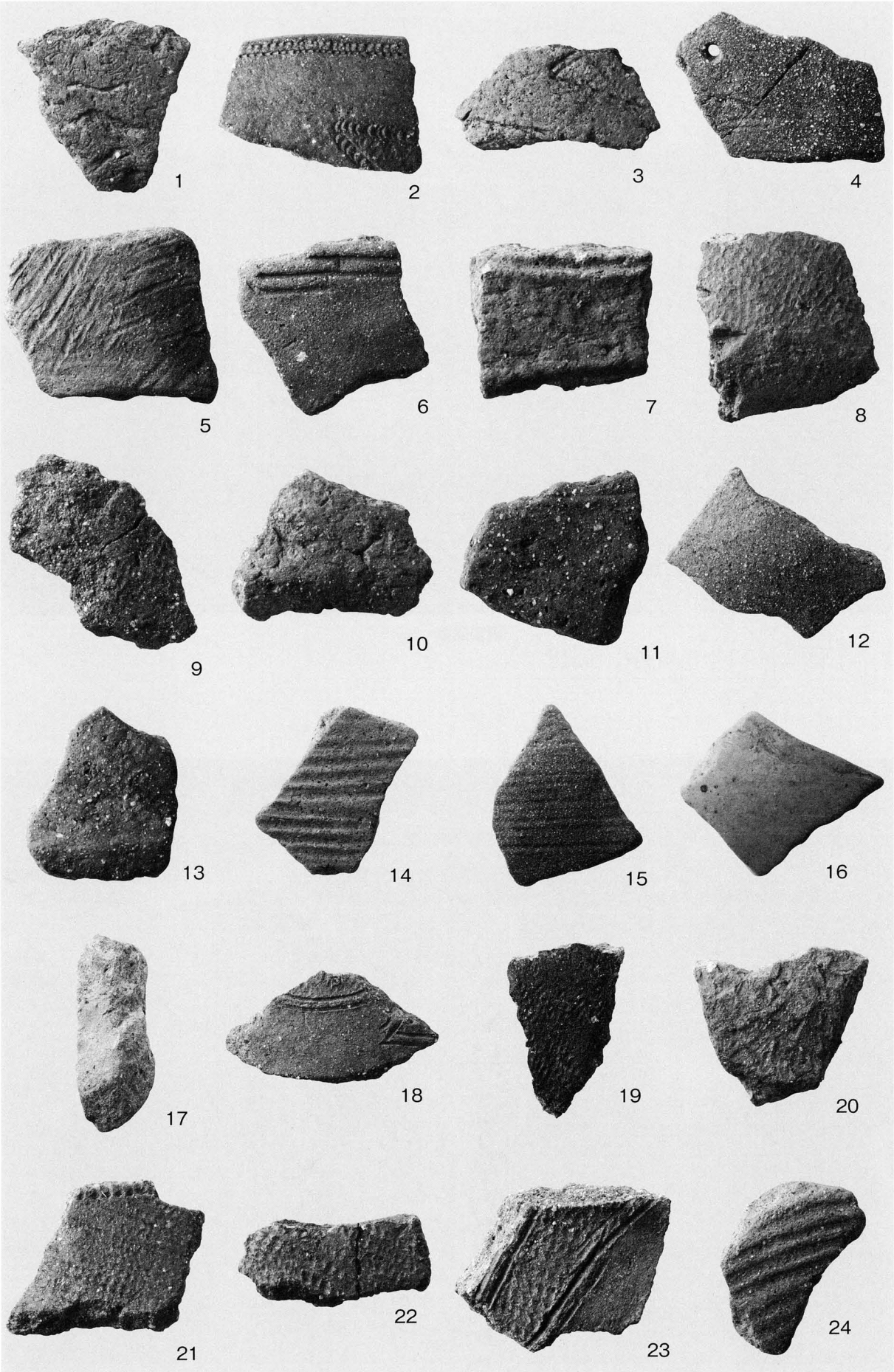
調査風景

調査風景（1）



調査風景（2）

図版 8



出土遺物　※番号は遺物挿図番号と対応

報告書抄録

ふりがな	ものみづかいせき
書名	物見塚遺跡
副書名	県営農林漁業用揮発油税財源身替農道整備事業釈迦堂地区における農道建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ名	甲州市文化財調査報告書
シリーズ番号	第4集
編著者名	平野　修、望月秀和
編集機関	財団法人　山梨文化財研究所
所在地	〒406-0032　山梨県笛吹市石和町四日市場1566　TEL055-263-6441
発行年月日	平成22（2010）年3月15日

ふりがな	ものみづかいせき
所収遺跡名	物見塚遺跡
ふりがな	やまなしけん こうしゅうし かつぬまちょう ふじい
所在地	山梨県甲州市勝沼町藤井1064-1
市町村コード	市町村：19213
北緯	35°38' 36.9246″
東経	138°43' 02.3488″
調査期間	20081224～20090227
調査面積	140.1㎡
調査原因	農道建設
種別	集落跡
主な時代	縄文時代早期末～前期初頭、前期後半、中期
主な遺構	土坑・溝状遺構（自然流路）
主な遺物	縄文式土器
特記事項	

甲州市文化財調査報告書 第４集

物見塚遺跡

県営農林漁業用揮発油税財源身替農道整備事業釈迦堂地区における農道建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

発行日　平成22年（2010）3月15日

編　集　㈶山梨文化財研究所

発　行　山梨県峡東農務事務所・甲州市教育委員会
㈶山梨文化財研究所

印　刷　㈱帝京サービス

甲州市文化財調査報告書　第4集

物見塚遺跡

二〇一〇年三月

山梨県峡東農務事務所・甲州市教育委員会・(財)山梨文化財研究所